

赤ちゃんだらけのオリンピック開催！わが子の成長に笑顔があふれる

2024/07/11 10:50



ゴールまで頑張って！

【音更】赤ちゃんたちが集まって障害物レースなどを行う『第2回赤ちゃんオリンピック in TOKACHI 2024』（とかち子育て支援センター主催、音更町共催）が6月30日、町内の生涯学習センター（希望が丘1）で開催され、会場には大人たちの歓声と赤ちゃんの泣き声が響いた。

生後2カ月から1歳半の赤ちゃん80人と、その保護者や祖父母ら270人が集合、前回大会同様の盛り上がりを見せた。

開会式には、小野信次音更町長も出席し、「子どもは大人を成長させてくれる存在。間もなくパリ五輪が開幕するので、赤ちゃんオリンピックも同様に盛り上げてほしい」とあいさつした。

競技は協調運動を養うことを目的に、約10メートルのコースにおもちゃや布団を障害物に見立てた障害物レースが行われた。

スタートの掛け声とともに、ゴールへと一直線を目指す赤ちゃんもいれば、途中で泣き出してしまう子、寝たままタオルに乗せられ引っ張られる子などが続出し、ほほ笑ましい光景が広がった。参加者らは、わが子の成長を一瞬でも逃すまいとスマートフォンなどを片手に撮影し、ゴールへと誘導させるため名前を大声で呼ぶ姿が見られた。



障害物レースで鈴が鳴る方へと引き寄せられる赤ちゃん

豊頃町から参加した谷野陽菜ちゃん（10カ月）の母朱利さん（29）は『去年参加できなかったのですが、今年は参加したいと思っていた。わが子が、いろいろな人や物に触れることができる貴重な機会だったので、子どもとともに楽しめた』と笑顔で話していた。



選手宣誓をする赤ちゃんら

会場には、道産野菜を原材料にしたフレークを製造・販売している大望（幕別町）も出店し、参加者に試食を配布していた。

運営ボランティアには、帯広三条高校や音更高校、上士幌高校の生徒らが参加し、準備から片付けまでを手伝った。

同イベントを主催した長岡代表は『町の協力があってこそ、今年も無事に開催することができた。来年も開催したい』と話した。（星野広翔）